

## 資料2 第7回佐賀県立高等学校生徒減少期対策審議会 概要

日 時：平成24年7月23日（月）14時30分～17時10分

場 所：佐賀県自治会館（佐賀市城内1丁目5番14号）

参加者：委員（代理を含む）（18名）、事務局（10名）

- 会 順：（1） 開会  
          （2） 会長挨拶  
          （3） 議事  
              ① 学科の配置・構成  
              ② 答申案（望ましい規模・県立高校の活性化）に係る審議  
          （4） その他  
          （5） 閉会

### 〔会議の概要〕

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事
  - （1） 学科の配置・構成
  - （2） 答申案（望ましい規模・県立高校の活性化）に係る審議
  - （3） その他

〔主な質問、意見等〕（☆は会長、○は委員、◆は事務局）

(1) 学科の配置・構成について

☆ 高校の配置について重要なのは、教育の機会均等と教育水準の維持である。

○ 大きな負担がなく通える範囲にいろいろな学科の高校があつて、学びたいことが学べるということが理想である。

○ 通いやすい高校に進学するのか、遠くても行きたい高校へ進学するのかは家庭で十分に話し合いをし、決めるべきことだと思う。全県一学区は、子どもたちが行きたい高校へ進学できるようにするためのシステムではないかと考える。

○ 現在の学科の構成はバランスがいいと思うが、バランスがいいだけで、この議論は終わらないと思うので、次の段階でどうするのか、方向性を出す必要があると思う。

☆ 学科の構成については、具体的な比率は設定する必要はない。

○ 学科の構成については、どの学科が何%ということではなくて、社会の趨勢について考え、本県の産業構成や求める人材を考慮して設定すべきだ。

(2) 答申案（望ましい規模・県立高校の活性化）に係る審議

① 「はじめに」「Ⅰ 県立高等学校の現状と課題」「Ⅱ 再編整備審議会答申及び再編整備第一次実施計画・第二次実施計画」について

○ 「Ⅱ 再編整備審議会答申及び再編整備第一次実施計画・第二次実施計画」というタイトルを最初に読む人は、これが今回の答申であり、再編実施計画と思うかもしれないので、変えたほうが良い。

- ② 「Ⅲ 生徒減少期に向けた対応の基本的な考え方」の「1 県立高等学校再編整備の必要性」について
- 生徒減により高等学校が小規模化するなか、再編整備の必要性は重い。再編の必要性をきちんと示す必要がある。そうでないと、学級減で対応すればいいということにもなりかねない。
  - 再編整備の基本方針に、社会情勢の変化として、グローバル化や高度情報化などの要素を書き添えておいた方がいい。
  - 基本方針に教育の機会均等もあった方がいい。
  - 特に職業系専門高校では、専門性の高い教師の育成、配置、確保が重要である。小規模化する中、ますます質が重要になるだろう。
- ③ 県立高等学校の望ましい規模と再編基準
- ☆ 中間まとめでは、あえて断定的な表現をしないようにまとめているが、答申については審議会としての審議の結果ということを強調したい。
  - 「望ましい規模」についての基本方針は、「…1 学年 160 人～320 人（4 学級から 8 学級）とすることが望ましい。」ではなく「…とする。」とし、後段も「柔軟に検討することが望ましい。」ではなく「柔軟に検討する。」としてはどうか。
  - 答申のレイアウトは、基本方針の枠囲みの下に補足のための説明文があると見やすい。
  - 今回は中間まとめのあったものは、それをそのまま示しており、中間まとめ以降に出された意見については、最後に付けくわえている。新たに出された意見を答申に入れていいのかどうか意見をいただきたい。
  - 「望ましい規模」についても、「再編基準」についても、重い内容なので、本審議会の審議の結果ということを強調した方がよい。

④ 県立高等学校の配置

☆ 「学科の配置と構成」で出た意見をもとに取りまとめた。

(委員了承)

⑤ 県立高等学校の在り方

○ 成績優秀だけでなく、有能な人材が求められている。有能な人材とは、世のため、人のため、社会のため、故郷のために役に立つ人のことだと定義している。技術があって、忍耐強く、熱心に仕事に取り組むような生徒の育成についても、基本方針に示してほしい。

○ 「有能」にいろいろな内容が包括されている。基本方針に入れてほしい。

○ 経済産業省の報告によると、大学生が就職のためにしていることと企業が求めていることがずれているということだ。学生は資格とか語学力とかが大事だとして、そういうものを身に付けようとしているが、企業は前向きで、粘り強く、熱心に仕事に取り組む人材を求めている。

☆ 教育内容が一番大切だが、教員配置とか ICT 活用とか、教育内容と同じように教育環境も大事だと考えるがどうか。

○ 賛成だ。21 世紀のツールとして ICT は重要だ。情報化についても基本方針に入れておいた方がよい。

○ 県内に進出してきた有力企業の幹部が、佐賀の生徒はまじめで優秀で熱心だが、壁にぶち当たったら止まってしまう。乗り越えていこうとする熱意が足りない。そういうものがこれから重要なのに、それが足りないと言っておられたと聞く。場合によっては先生方に研修を受けていただいて、熱心で有能な生徒が育っていくようにできればと思う。

○ 農業科の在り方としては、実習を通して行う人材育成が重要である。実習を主体とする農業教育は、総合学科の農業系列では難しいのではないかと。農業高校は専門性を持った独自の高校として残していくことが望ましいと思う。

- ☆ 六次産業化なども視野に入れた新しい農業教育も必要なのではないかと思う。
- 農業の六次産業化にしても、拠点校を中心としたネットワークづくりにしても、専門性の高い指導者がいないと実現しない。
  - 農業科の在り方としては、実習を通して行う人材育成が重要である。実習を主体とする農業教育は、総合学科の農業系列では難しいのではないか。農業高校は専門性を持った独自の高校として残していくことが望ましいと思う。
  - 工業科については「ものづくり産業における人材の育成について、これまで担ってきた役割を引き続き果たす必要がある。」としてある。農業科についても、これまで農業の専門性を生かして、幅広い人材育成を行っており、そのことにプラスして、六次産業化への取組とか、拠点校を作ってネットワーク作りとかによって更に充実させるというようにまとめればいい。
  - 商業科についての議論について、専門性を生かした就職が難しいのであれば、教える教科や科目や指導法を変えるなど、大胆なことをしないと間に合わない。子どもたちにとっては貴重な3年間なので、時代に合わせた教育をやっていくということを発信する必要がある。
  - 生徒減少期に対応した充実発展に資する対策ということだが、このまま読んでも、先生方はあまり頑張ろうという気にならないのではないか。
  - 骨子案の内容は、これまで審議会が出た委員の意見をできるだけ忠実にまとめて整理したものである。
  - 全体を通して、この答申案はここでの議論を相当尊重してまとめていると思う。
  - 骨子案は委員の意見をもとに事務局でまとめているものであるとい

うことであるが、意見をいろいろ書いてもインパクトがない。関係者が、「よし、やろう」と心を奮い立たせるような、意欲を高め、学科の意義が感じられるようなメッセージ性が高いものにしてほしい。

- 課題もある状況で、先生や学校は一生懸命やっていて、この答申を見て前向きにがんばろうというやる気を出してくれるような書きぶりになるといい。今のままでも十分やっつけていけるけど、少子化だから、更に充実させるような書きぶりにしたほうがいい。

☆ 家庭科についてはどうか。

- この表現で問題ない。

☆ 総合学科についてはどうか。

- 現状についての記述である。どういう工夫ができるかを書けるといい。

☆ 定時制・通信制についてはどうか。

- 子どもが将来へ展望を持つためには、希望が必要で、進学できるということは一つの希望である。定時制・通信制高校の存在によって、展望を持てる子どももいる。

☆ 県立高等学校の在り方については、10年後にどうあるべきかという視点から前向きに検討しているつもりである。限りある文章でまとめるのは難しいが、委員の発言の真意が十分に答申に含まれるよう、検討させていただきたい。

⑥ 県立高等学校の通学区域

- 私学は寮をもっているのが、本気で力を入れたら、公立は太刀打ちできなくなる。公立も、全県で募集するのであれば寮の設置を前提としてやっつけていけば議論が違ってくると思う。

- 全県一区にすれば、地域が疲弊するかもしれず、答申骨子案にある通り慎重に対応することが大事だと思う。
- 県内どこでも、同じような教育を受けられるということが大事ではないか。
- ☆ 通学区域については、委員からこれまでもいろいろな意見をもらっており、その意見を新たに加えている。基本的な方向性としては、通学区域について拡大する方向で検討する。

(3) その他

4 その他（第8回審議会の日程について事務局より連絡）

5 閉会